

第4次食育推進基本計画の重点課題の方向性（案）

第3次食育推進基本計画

<コンセプト>
実践の環を広げよう

SDGsの目標は、食育の推進によって貢献可能

第4次食育推進基本計画

<コンセプト>
SDGsの実現に向けた食育の推進

<重点課題>

- (1)若い世代を中心とした食育の推進
- (2)多様な暮らしに対応した食育の推進
- (3)健康寿命の延伸につながる食育の推進
- (4)食の循環や環境を意識した食育の推進
- (5)食文化の継承に向けた食育の推進

<主な論点>

- ・新しい生活様式では、家族と過ごす時間が増える一方で、例えば地域での共食など、これまでと同様な取組が難しい状況
- ・デジタル化の推進、暮らし方や働き方の変化に応じた食育を推進していく必要
- ・高齢化の中で、健康寿命の延伸が課題であり、子ども（乳幼児期を含む）から高齢者まで生涯を通じた食育の推進が重要
- ・栄養士・栄養教諭等が関係者と連携して、食育が乳幼児期から体系的・継続的に実施されることが必要
- ・家庭において、早寝早起きや朝食をとること等の基本的な生活習慣の形成が重要
- ・職場等で健全な食生活を実践しやすい環境づくりが重要
- ・食品の選び方等基礎的な知識を持ち、行動することが必要

<重点課題の方向性>

- (1)新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進
- (2)生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進
- (3)持続可能な食の「3つのわ」を支える食育の推進

<食をめぐる現状>

- ・新たな生活様式への対応
- ・デジタル化
- ・SDGsへのコミットメント
- ・少子高齢化
- ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養
- ・単独世帯や共働き世帯の増加
- ・地域社会の活力低下
- ・食の外部化の進展
- ・食や食に関する情報の氾濫
- ・食料自給率37%（平成30年、加リべース）
- ・食品ロス612万トン（平成29年度推計）

- ・食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者の様々な活動に支えられていることの理解を深める上で、農林漁業体験は重要
- ・学校給食に地場産物を使用し、地域の自然や産業への理解を深め、食に関する感謝の念を育むことは重要。栄養・教育関係者、生産者等関係者の協働による推進が重要
- ・持続可能な食料生産から消費に至るまでのストーリーを子どもの頃から身近に感じる事が重要
- ・生産から消費までの環境負荷を低減できるよう、環境と調和のとれた食料生産とその消費に配慮した食育の推進が必要
- ・ユネスコ無形文化遺産「和食；日本人の伝統的な食文化」を全ての日本人が保護・継承するとともに、人材の育成が必要
- ・地域において、多様な関係者が連携・協働しながら食育を進めていくことは、国民運動の広がりのために重要

<めざす到達点>

- SDGsの実現に向けた食育の推進
- ・心身の健康の増進と豊かな人間形成
 - ・持続可能な食・フードシステムの構築